

# 1 章 都市の現況と課題の整理

## 1 都市の現況



### (1) 自然的条件

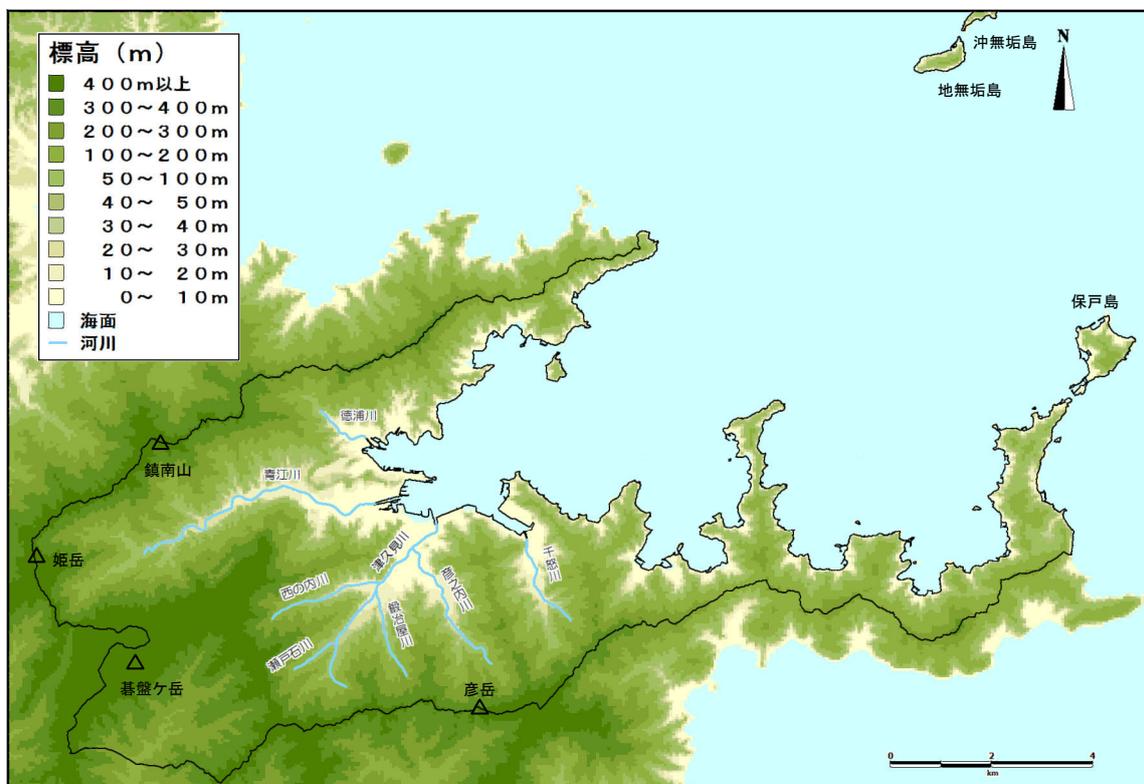
本市は、大分県の南東部に位置しており、北側は臼杵市、南側は佐伯市に接し、東側は豊後水道に面しています。

豊後水道に面した津久見湾の湾口部を囲うようにリアス式海岸が半島部に伸び、南の四浦半島の延長に保戸島、北の長目半島の延長に地無垢島、沖無垢島の3島が浮かんでいます。市街地は、青江川、津久見川に挟まれた平野と海岸線の小さな平地に形成されており、背後には、鎮南山（536m）・姫岳（620m）・碁盤ヶ岳（716m）・彦岳（639m）といった山々が三方から馬蹄形に市域を囲んでいます。

石灰石採掘場（水晶山）から臼杵市に至るまで幅約1km、延長約10kmの石灰石の巨大な岩体が横たわっており、この岩は本市を代表する基幹産業（セメント産業）を支える貴重な資源として利用されています。

気候としては、比較的温暖な気候にも恵まれ、台風の襲来や冬の厳しい季節風から守られており、自然災害も少ない都市となっています。

図 津久見市の地形



(2) 人口・世帯数

① 人口の推移

本市の人口推移をみると、平成 17 年国勢調査人口で 21,456 人となっており、昭和 60 年から 20 年間で約 7,000 人の減少がみられます。隣接する臼杵市、佐伯市と比較しても、本市の人口減少率が非常に高い状態となっています。

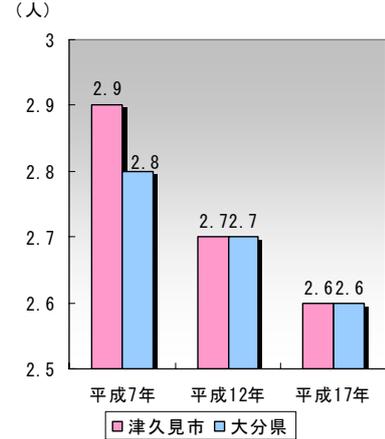
また、世帯数と世帯人員も減少し続けており、県平均の世帯人員と比較すると、平成 7 年では 0.1 人上回っていたが平成 12 年、平成 17 年は県平均値へと変化しています。

図 人口と世帯数の推移



資料：国勢調査

図 平均世帯人員数（大分県比）



資料：国勢調査

② 地域別の人口増減率

国勢調査（平成 12 年と平成 17 年）の小地域別に人口増減をみると、一部地域を除いてほぼ全地域で減少しており、全市的に人口が徐々に減少している状態となっています。

人口が増加しているのは、市街地縁部や半島部の一部であり、表中の「大字長目」をはじめ、特別養護老人ホームの入居者による人口増加がみられる地区もあります。

表 小地域の平成 12 年～平成 17 年の人口増減

名称	H12人口	H17人口	増減率 (H17/H12)	名称	H12人口	H17人口	増減率 (H17/H12)
大字千怒	2,599	2,584	0.99	入船東町	145	118	0.81
大字津久見浦	348	321	0.92	谷ノ元町	62	56	0.90
岩屋町	441	390	0.88	徳浦本町	670	709	1.06
大友町	316	272	0.86	徳浦宮町	486	453	0.93
高洲町	475	449	0.95	大字堅浦	1,000	868	0.87
宮本町	553	544	0.98	大字長目	143	122	0.85
上宮本町	769	691	0.90	大字長目	179	162	0.91
中央町	614	579	0.94	大字長目	76	185	2.43
中央町	0	0	0.00	大字長目	0	0	0.00
大字津久見	1,987	1,970	0.99	大字長目	54	39	0.72
大字津久見	0	0	0.00	大字長目	0	0	0.00
大字津久見	1,204	1,187	0.99	大字長目	48	50	1.04
大字津久見	0	0	0.00	大字長目	72	70	0.97
大字津久見	566	524	0.93	大字長目	0	0	0.00
文京町	329	303	0.92	大字長目	0	0	0.00
中田町	448	381	0.85	大字目見	447	369	0.83
立花町	666	563	0.85	大字目見	323	270	0.84
大字八戸	17	16	0.94	大字網代	276	248	0.90
大字上青江	81	62	0.77	大字網代	119	108	0.91
大字上青江	86	87	1.01	大字網代	177	148	0.84
大字上青江	100	85	0.85	大字網代	0	0	0.00
大字上青江	215	276	1.28	大字四浦	91	80	0.88
大字上青江	228	213	0.93	大字四浦	0	0	0.00
大字上青江	93	92	0.99	大字四浦	166	152	0.92
大字上青江	89	81	0.91	大字四浦	99	88	0.89
大字上青江	60	46	0.77	大字四浦	0	0	0.00
大字上青江	450	412	0.92	大字四浦	71	67	0.94
大字上青江	234	215	0.92	大字四浦	69	82	1.19
大字上青江	305	259	0.85	大字四浦	141	107	0.76
中町	195	152	0.78	大字四浦	46	37	0.80
小園町	234	213	0.91	大字四浦	13	7	0.54
門前町	215	147	0.68	大字四浦	0	0	0.00
岡町	136	137	1.01	大字四浦	13	8	0.62
地蔵町	155	137	0.88	大字四浦	36	36	1.00
志手町	201	175	0.87	大字四浦	0	0	0.00
新町	226	216	0.96	大字四浦	45	39	0.87
セメント町	556	470	0.85	大字四浦	25	20	0.80
元町	329	322	0.98	大字四浦	29	25	0.86
井無田町	233	217	0.93	大字四浦	102	84	0.82
港町	232	209	0.90	大字四浦	0	0	0.00
大字下青江	0	0	0.00	大字保戸島	0	0	0.00
入船西町	436	385	0.88	大字保戸島	1,520	1,267	0.83

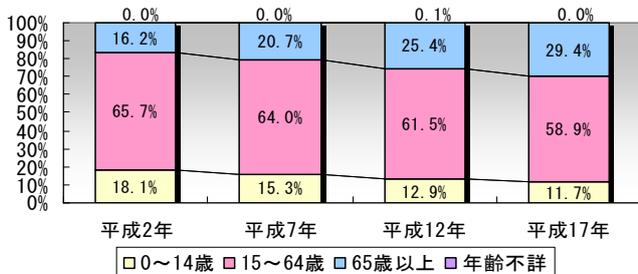
資料：国勢調査

③ 年齢別人口

本市の年齢別人口の推移をみると、65歳以上の人口が著しく増加する一方で0～14歳と15～64歳の人口が減少しています。

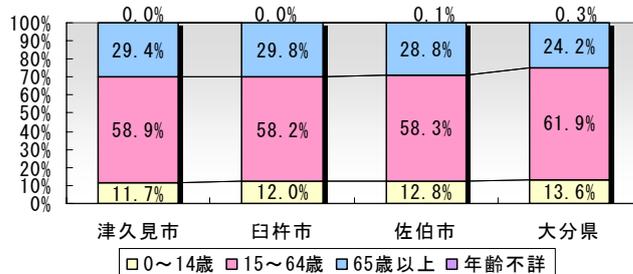
平成17年の年齢別人口をみると、65歳以上の高齢者人口構成比は県平均値以上となっています。ただし、隣接している臼杵市、佐伯市もほぼ同じ状況となっており、これら隣接都市と比較しても15～64歳の人口構成比が若干高くなっています。

図 年齢別人口



資料：国勢調査

図 年齢別人口（H17年）の県内比較



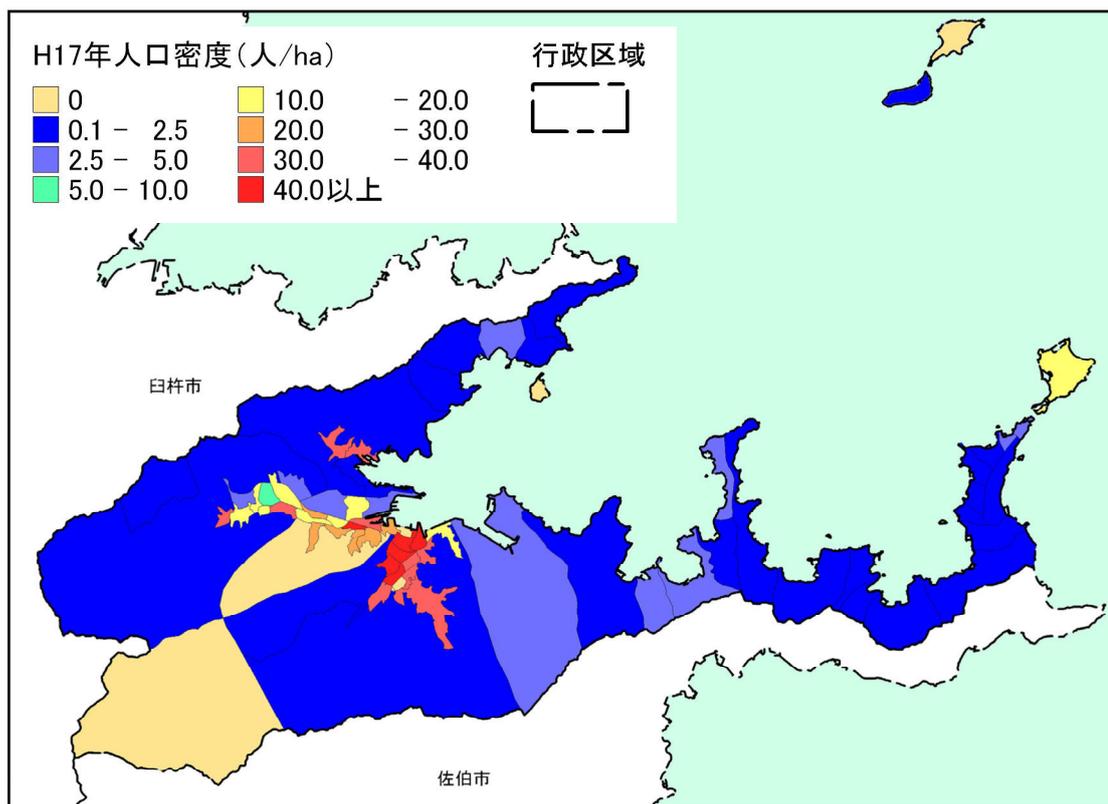
資料：国勢調査

④ 人口密度

本市の人口密度は、用途地域内においては非常に高い人口密度となっている一方、用途地域外は非常に低い人口密度となっており、平坦地の限定された地域に人口の大半が集中する状態となっています。

用途地域内のうち、駅周辺の中心市街地の地域では人口密度40人/haを超えており、その北側の地域では、住宅地や集落地の分布によって人口密度の高い地域と低い地域が混在した状態となっています。中心市街地南側の比較的新しく開発された地域においては、人口密度が30.0人/ha以上の地域が多く集まっており、住宅地の完成によりこれら南部地域に人口集積が進んだものと考えられます。

図 平成17年人口密度



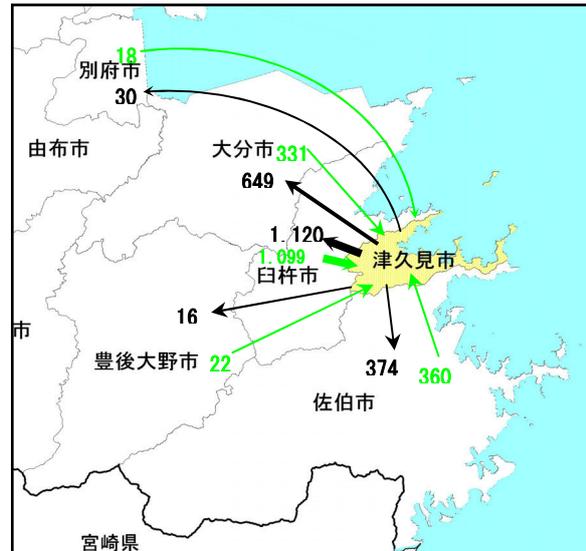
⑤ 流出流入人口

本市に常住する就業者・通学者は、10,265人であり、その約7割が市内で就業・通学しています。

流出状況を見ると、臼杵市への流出が多く、次いで大分市、佐伯市の順となっています。

流入状況を見ると、臼杵市からの流入が多く、次いで佐伯市、大分市の順で続いています。

図 流出・流入人口



資料：国勢調査

(3) 産業

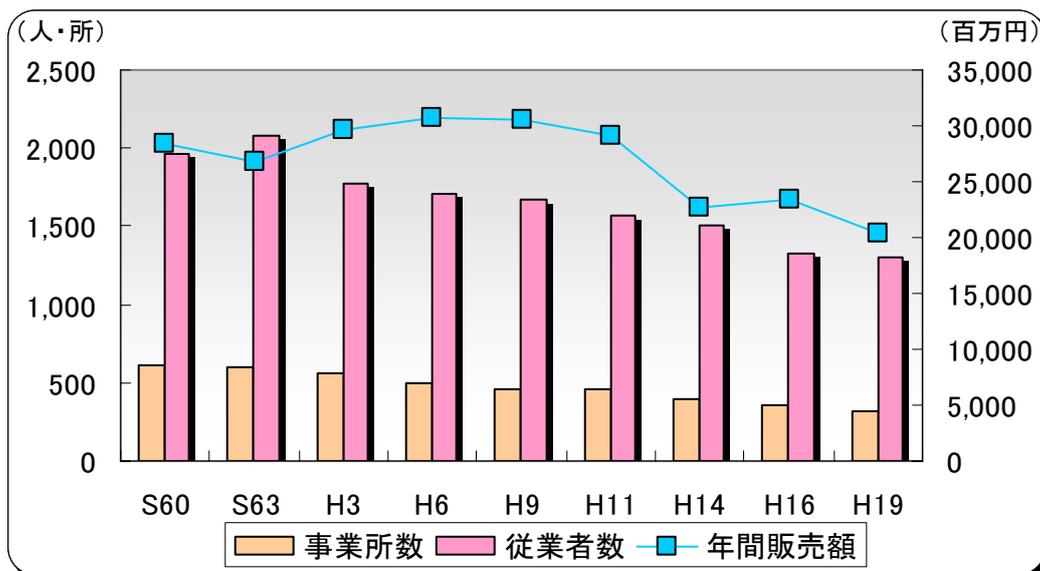
① 商業

本市の商業動向は、事業所数、従業員数、年間販売額のすべてが減少傾向となっています。特に、事業所数は一貫して減っており、平成19年では昭和60年のほぼ半数にまで減っています。

従業員数については、昭和63年にやや増えたものの、平成19年では昭和63年の約6割まで減っています。

年間販売額は平成3年と平成6年で伸びたものの、平成9年で若干下がり、平成14年には急激に下がっています。その後、平成16年でやや持ち直していますが、表中で最も販売額の高い平成6年の約8割弱まで落ち込んでいます。

図 商業の推移



② 工業

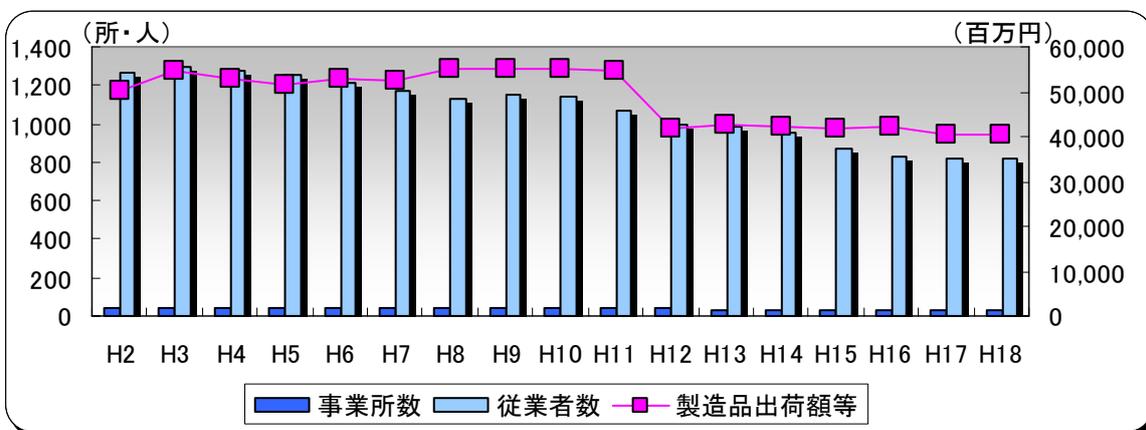
本市の工業は、リアス式海岸を利用した天然の良港と豊富な石灰岩の産出を生かして、大分県の発展に寄与する役割を果たしてきました。

本市の工業の推移をみると、出荷額については、平成2年から平成10年までの間に増減を繰り返しながらある程度の数字を保っていましたが、平成11年から12年にかけて急激に減少し、その後も減少傾向が続いています。

事業所数をみると、平成3年に46箇所あった事業所が平成18年には32箇所まで減っています。同じく従業者数も平成3年をピークに徐々に減少しており、平成18年には平成3年の約6割まで落ち込んでいます。

また、平成18年における製造品出荷額構成比をみると、本市で最も出荷額の多い製造品は、窯業土石（セメント）で全出荷額の8割以上を占めており、次いで一般機械、食料品の順で続いています。

図 工業の推移

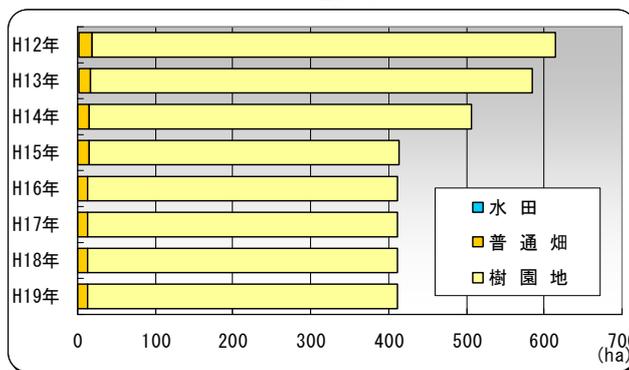


③ 農林漁業

○ 農業

農業は、古くからみかんを主体とした柑橘類の生産が中心となっており、他都市と違って水田がほとんどないという特徴を持っています。耕地面積は年々減少しており、平成12年で614haであった耕地面積は、平成16年で411haまで減少しています。

図 耕地面積



資料：津久見市統計書

表 青果物生産出荷統計

単位:ha

農作物の栽培面積	S40年	S45年	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
みかん	739	963	899	624	477	422	334	274	162
なつみかん	74	155	165	187	189	150	67	44	38
はっさく	2	6	12	14	14	12	8	7	4
いよかん								18	3
ネーブルオレンジ								11	4
かぼす			2	3	4	17		18	15
セミノール								45	27
ボンカン								35	36
清見								72	36
不知火									18
柑橘類 計	815	1,124	1,078	828	684	601	409	524	343
花き								3	2

資料：農林水産省統計情報部

○ 林業

本市の林業については、平成13年から平成17年まで林野面積4,953haを保持しており、そのすべてを民有林が占めています。

表 林業の状況

年次	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年
総数(ha)	4,933	4,953	4,953	4,953	4,953	4,953	4,949
国有林(ha)	0	0	0	0	0	0	0
民有林(ha)	4,933	4,953	4,953	4,953	4,953	4,953	4,949

資料：平成14～20年度の大分県統計年鑑

○ 漁業

本市の漁業は、保戸島を根拠地とする沖合・遠洋マグロ延縄漁業が、沿岸域ではまき網やアジ、タイ、サバなどの中高級魚を対象とする一本釣りなどの漁業やブリ、真珠等の養殖業が営まれています。近年は、限りある水産資源を守り育てる資源管理型栽培漁業が積極的に進められており、漁港整備や漁場造成、育成施設の整備などが進められています。

本市内の漁業経営体数は、大分県の経営体数の1割強で推移を続けており、年によって増減はあるものの徐々に減少しています。

表 漁業の経営対数の推移

年次	各年翌1月1日					
	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年
大分県	4,043	4,603	3,536	4,235	3,979	3,152
津久見※	301	252	297	337	319	285
保戸島※	211	221	200	217	183	125

※海区ならびに漁業地区

資料：平成20年度の大分県統計年鑑

(4) 土地利用

本市の土地利用の構成をみると、その他の土地利用（採掘場等）が多いほか、その他の土地利用以外は変化が少ないという特徴がみられます。

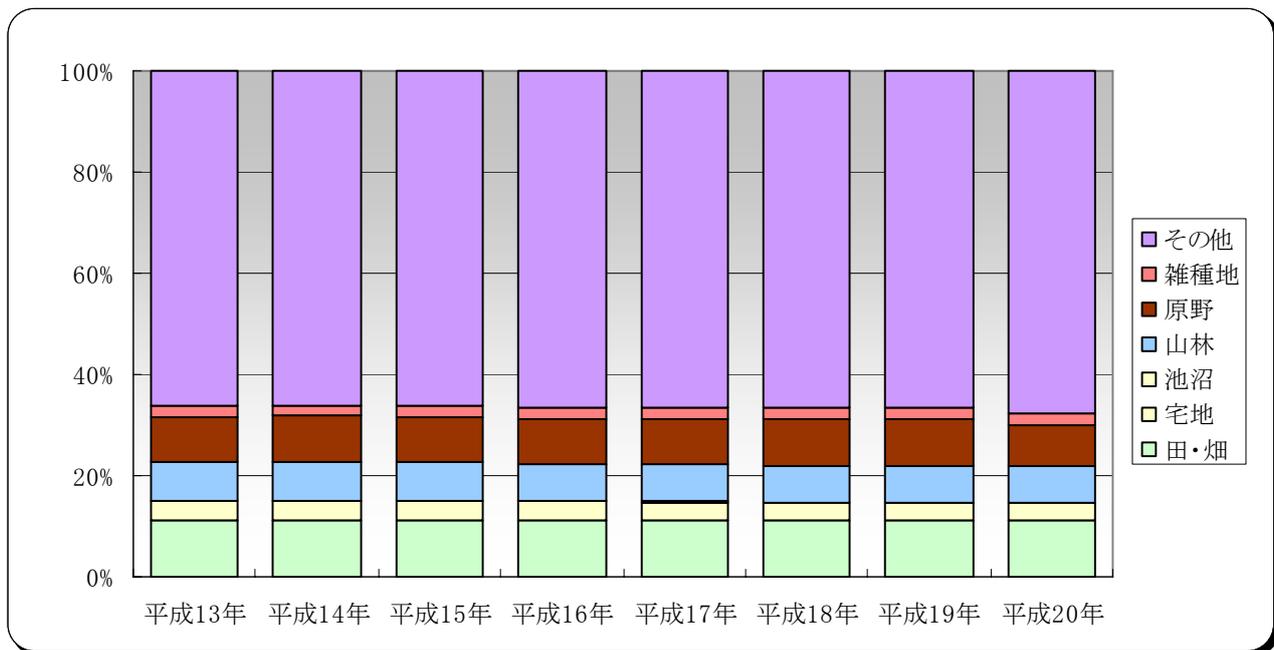
表 土地利用状況の推移

単位: km<sup>2</sup>

年次	田・畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他	合計
平成13年	8.99	2.86	0.01	6.16	7.16	1.76	52.44	79.38
平成14年	8.99	2.88	0.01	6.16	7.16	1.77	52.44	79.41
平成15年	8.96	2.89	0.01	6.1	7.14	1.85	52.48	79.43
平成16年	8.94	2.89	0.01	5.8	7.04	1.86	52.94	79.48
平成17年	8.92	2.85	0.01	5.81	7.05	1.86	52.99	79.49
平成18年	8.88	2.85	0.01	5.83	7.06	1.89	52.98	79.50
平成19年	8.79	2.86	0.01	5.92	7.08	1.91	52.94	79.51
平成20年	8.74	2.86	0.01	5.79	6.43	1.94	53.76	79.53

資料：津久見市統計書

図 土地利用状況の推移



(5) 市街地開発事業及びその他の開発動向

本市では、10地区の土地区画整理事業が都市計画決定され、現在まで8地区の事業が完了しています。

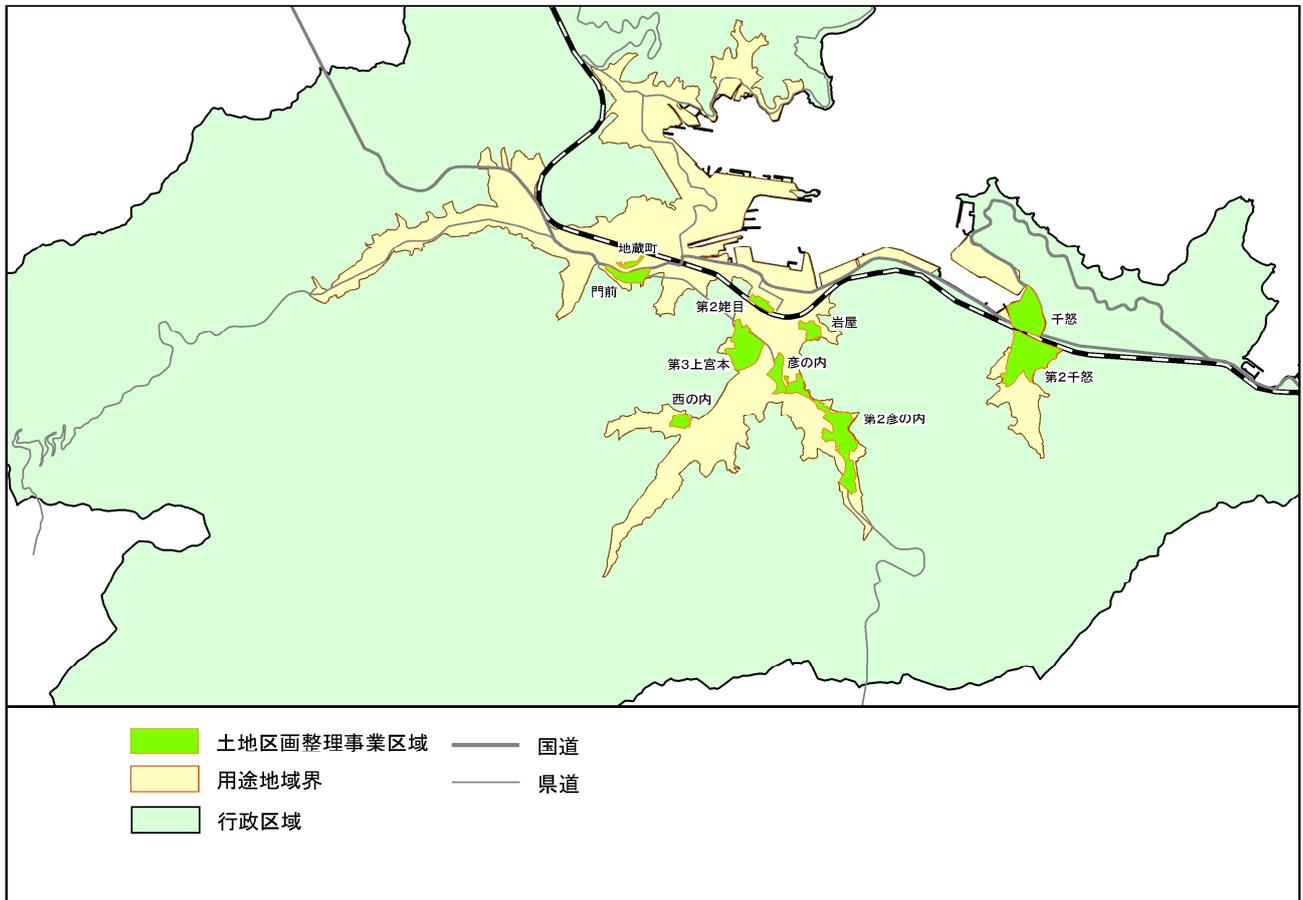
表 土地区画整理事業実施状況

平成21年3月31日現在

名称	施行主体	施行面積 (ha)	都市計画当初決定年月日	都市計画最終決定年月日	告示番号	事業年度	摘要
第2姥目	市	1.7	S28.10.12		建告1348号	S29～S43	完了
彦の内	市	3.9	S34.11.14		建告2288号	S35～S44	完了
岩屋	組合	2.5	(土地区画整理法のみによる事業)			S36～S42	完了
第3上宮本	市	9.4	S28.10.12	S61.2.19	市告5号	S38～H20	清算中
門前	市	3.5	S41.12.18		建告4290号	S42～S50	完了
千怒	市	10.3	S53.12.12		市告65号	S53～H2	完了
西の内	組合	2.3	(土地区画整理法のみによる事業)			S56～S58	完了
第2彦の内	組合	15.2	(土地区画整理法のみによる事業)			S57～H1	完了
地蔵町	共同	0.8	(土地区画整理法のみによる事業)			S63～H1	完了
第2千怒	市	14.9	H7.3.7		市告11号	H7～H21	施行中

資料：大分県都市計画（資料編）平成21年7月

図 市街地開発事業位置図



(6) 法規制指定状況

① 都市計画法

○都市計画区域・用途地域

本市では、行政区域の約63%に対して都市計画区域が指定されており(指定面積4,997ha)、このうち約12%の588haに対して用途地域が指定されています。用途地域の内訳は、住居系用途地域が半分以上を占めており、次いで工業系用途が多くなっています。

表 用途地域指定状況

区分	面積(ha)	構成比(%)
用途地域	588	
第1種中高層住居専用地域	50	9%
第2種中高層住居専用地域	141	24%
第1種住居地域	156	27%
第2種住居地域	18	3%
準住居地域	17	3%
住居系用途地域合計	382	65%
近隣商業地域	16	3%
商業地域	36	6%
商業系用途地域合計	52	9%
準工業地域	55	9%
工業地域	99	17%
工業系用途地域合計	154	26%

資料：大分県都市計画（資料編）平成21年7月

図 用途地域指定状況

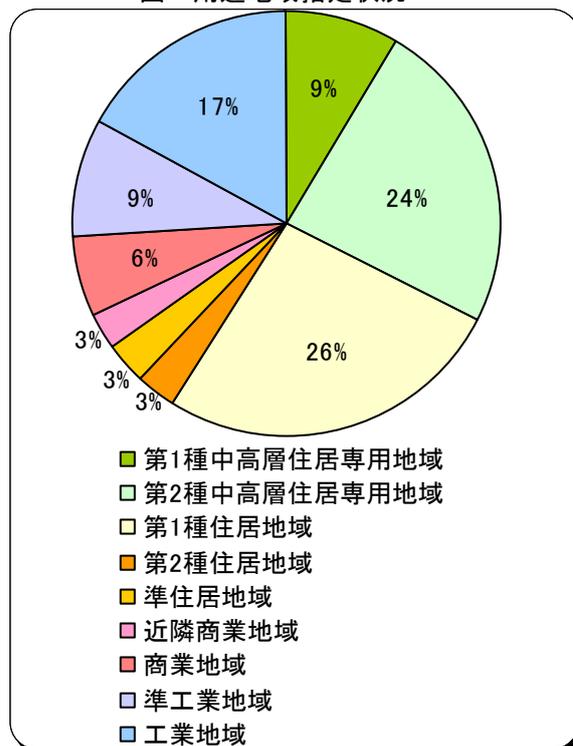


表 都市計画区域・用途地域指定状況の比較

平成21年3月31日現在

都市名	区域名	行政区域		都市計画区域		都計区域/行政区域		用途地域 面積(ha)	用途/都計 面積比(%)
		面積(ha)	人口(人)	面積(ha)	人口(人)	面積比(%)	人口比(%)		
大分市	大分	50,125	469,832	36,105	453,120	72%	96%	11,249.0	31%
	佐賀関			1,149	4,884	2%	1%	0.0	0%
別府市	別府※	12,530	121,755	8,577	121,220	68%	100%	2,808.0	33%
中津市	中津	49,109	86,180	5,626	68,789	11%	80%	2,616.0	46%
日田市	日田	66,619	73,532	6,625	54,467	10%	74%	1,244.0	19%
佐伯市	佐伯	90,344	81,587	4,122	40,068	5%	49%	1,164.0	28%
臼杵市	臼杵	29,107	44,038	4,822	29,890	17%	68%	1,110.0	23%
津久見市	津久見	7,953	21,555	4,997	17,699	63%	82%	588.0	12%
竹田市	竹田	47,767	26,686	1,754	8,608	4%	32%	431.0	25%
豊後高田市	豊後高田	20,664	25,049	5,300	15,249	26%	61%	586.0	11%
杵築市	杵築	28,001	33,759	5,023	21,887	18%	65%	412.0	8%
宇佐市	宇佐	43,912	59,691	9,579	46,059	22%	77%	782.0	8%
豊後大野市	三重	60,336	41,732	2,235	14,167	4%	34%	430.5	19%
国東市	国東	31,780	33,970	827	4,818	11%	17%	260.0	31%
日出町	日出	7,323	28,423	4,039	27,447	55%	97%	570.0	14%
由布市	湯布院	31,916	36,677	1,874	9,422	6%	26%	631.0	34%
	挾間			2,489	14,335	8%	39%	462.1	19%
玖珠町	玖珠	28,644	18,233	1,058	10,267	4%	56%	301.0	28%

※別府国際観光温泉文化都市建設計画

資料：大分県都市計画（資料編）平成21年7月

② 農業振興地域の整備に関する法律

本市の農業振興地域は平成 16 年度で 5,534ha が指定されており、そのうち 787ha が農用地区域に指定されています。

表 農業振興地域等の指定状況

平成16年度現在	
	面積 (ha)
農業振興地域	5,534
内農用地区域	787

資料：第 4 次津久見市総合計画

③ 自然公園法

本市には、自然公園法に基づく自然公園が2箇所指定されています。これら自然公園は、本市の地域特性の1つでもあるリアス式海岸を中心に指定されています。

表 自然公園法の状況

公園の名称	指定日	面積(ha)	備 考
日豊海岸国定公園	S49.2.15	357.9	
豊後水道県立自然公園	S26.3.30	3,086.5	区域変更 S49.5.31
合 計		3,444.4	

資料：大分県環境白書（平成 19 年版）

## (7) 交通

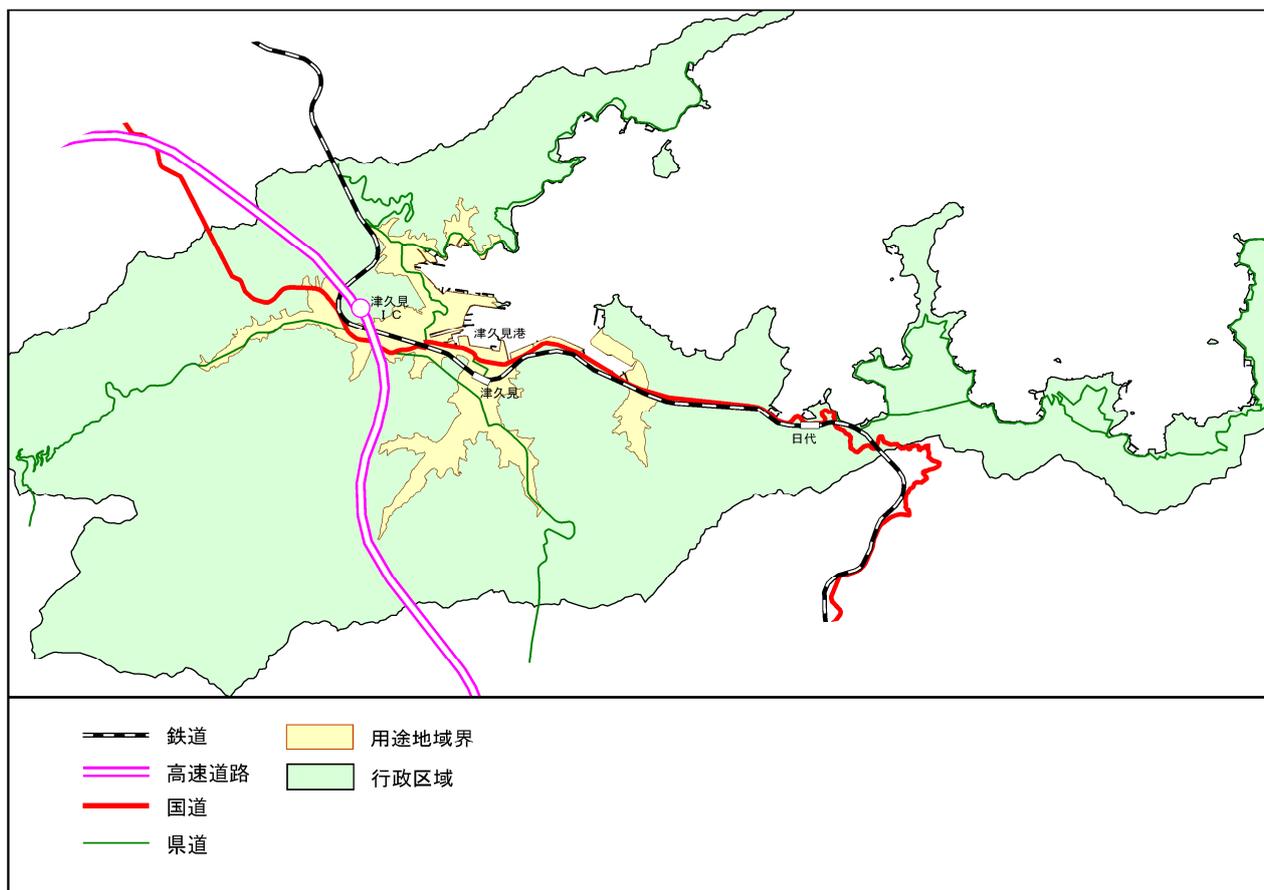
## ① 道路

本市では、平成 13 年の東九州自動車道津久見インターチェンジ（以下、「インターチェンジ」を単に「IC」という。）の完成によって、九州各県からのアクセスが容易となり、さらに、平成 20 年 6 月の佐伯 IC までの延伸完了によって、県南及び宮崎方面からのアクセス性が向上することとなりました。

市内には市街地の中心を通る国道 217 号や、主要地方道佐伯津久見線、県道臼杵津久見線、津久見野津線などがあり、本市における交通網の骨格をなしています。このうち、最も交通量が多い路線が国道 217 号であり、通過交通と都市内発生交通の混在によって平日混雑度が 2.26※に達しています。

近年、地域間を連絡するトンネル道路の整備によって、中心市街地と周辺地域間の連絡性は大きく向上しましたが、狭隘な道路しかない半島部や山地部も残されており、災害時の孤立化対策の観点からも道路改良が求められています。

図 津久見市交通網図



※【参考】道路への負荷を表す指標「混雑度」について

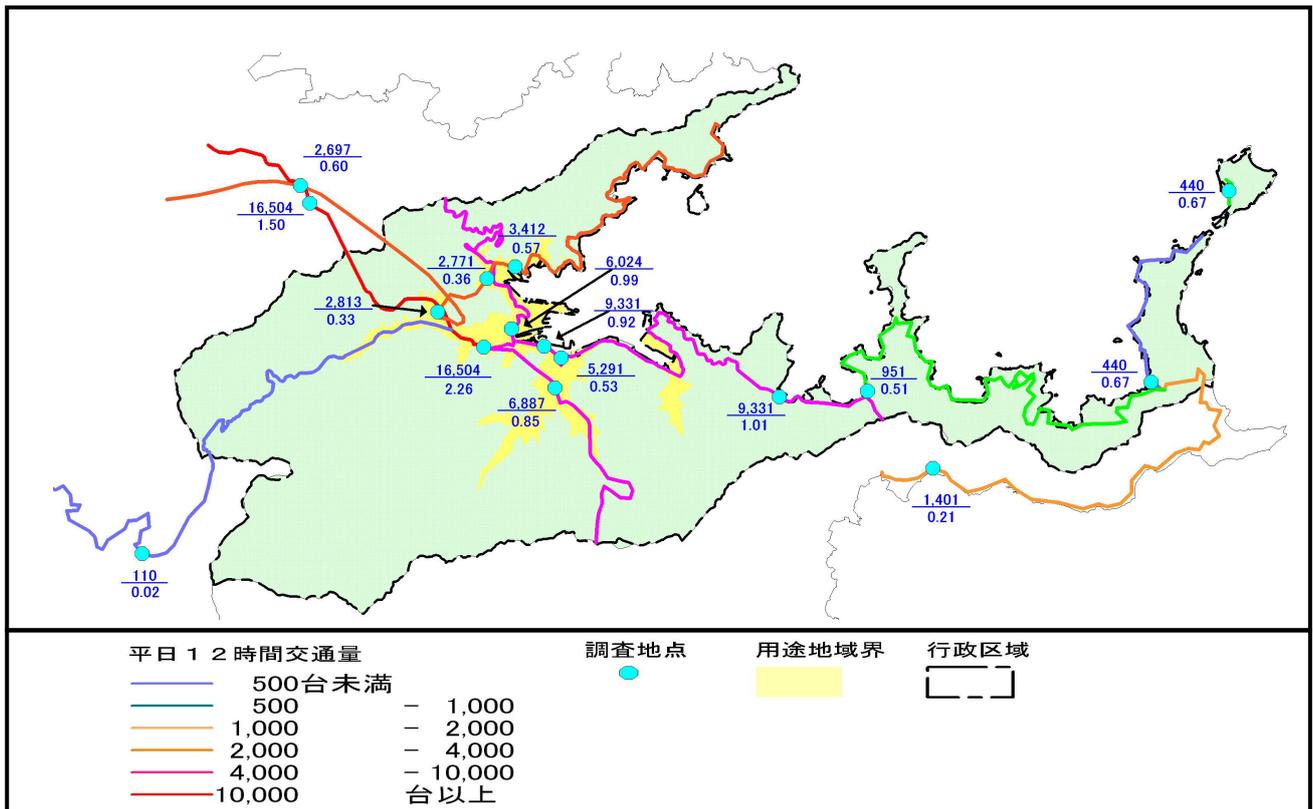
- 混雑度とは道路の混雑の程度を示す指標であり、道路の交通量の交通容量に対する比(交通量/交通容量)で示される。
- ・ 混雑度は通常 1 日(24 時間)単位または 12 時間単位で算出される。
- ・ すなわち混雑度が 1.00 を超えた場合は、自動車の交通量が道路の交通容量を超えた場合であり、混雑度 2.26 とは、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高くなると考えられる。

表 自動車交通量

路線名	観測地点名	平日自動車 車類24時 間交通量	平日自動車 車類12時 間交通量	(H11)平日自動車 車類12時間 交通量	H17/H11 交通量 増減	平日 昼夜率	休日 昼夜率	12時間 大型車 混入率 (%)	平日 混雑度
東九州自動車道	臼杵IC～津久見IC間	3,245	2,697	—	—	1.21	1.24	12.2	0.60
一般国道217号	(臼杵市大字東海添字内畑)	19,805	16,504	14,086	1.17	1.20	1.28	11.1	1.50
一般国道217号	津久見市新町9番2号	19,805	16,504	15,010	1.10	1.20	1.28	11.1	2.26
一般国道217号	津久見市中央町24番15号	11,167	9,331	9,325	1.00	1.20	1.28	6.1	0.92
一般国道217号	(津久見市大字日見字小浦)	11,167	9,331	3,064	3.05	1.20	1.28	6.1	1.01
佐伯津久見線	津久見市文京町2番2号	8,609	6,887	5,924	1.16	1.25	1.34	10.1	0.85
津久見野津線	臼杵市東神野字上宮本	129	110	76	1.45	1.17	1.27	11.8	0.02
臼杵津久見線	津久見市入船西町	7,048	6,024	6,670	0.90	1.17	1.27	11.7	0.99
臼杵津久見線	(津久見市大字徳浦)	3,519	2,771	2,716	1.02	1.27	1.27	11.9	0.36
四浦港津井浦線	佐伯市上浦大字最勝海浦字夏井	1,639	1,401	1,496	0.94	1.17	1.19	12.8	0.21
津久見停車場線		6,720	5,291	4,997	1.06	1.27	1.31	6.6	0.53
四浦日代線	(津久見市大字網代字向の平)	1,113	951	928	1.02	1.17	1.23	6.8	0.51
四浦日代線	津久見市大字四浦字落ノ浦	515	440	430	1.02	1.17	1.19	10.9	0.67
津久見インター線	津久見市大字上青江	2,489	2,813	—	—	1.17	0.00	8.3	0.33
長目中ノ島線		761	599	1,517	0.39	1.27	1.27	3.3	0.21
大泊浜徳浦線	(津久見市徳浦本町)	3,992	3,412	3,343	1.02	1.17	1.20	18.5	0.57

資料：平成17年交通センサス

図 H17 交通センサス交通量



② 港湾

本市では、市街地の中心に津久見港が位置しており、保戸島や無垢島へと定期便が運行されています。また、津久見港は重要港湾（※）に位置づけられており、国の海上輸送網の拠点として利用されています。

津久見港の取扱貨物量は大分港に続いて県内で2番目に多く（2,600 万フレート・トン※）、取扱貨物量は大分県全体の約 20%を占めています。取扱貨物量の内訳でみると、内貿が多く国内への移出が約 86%を占めています。

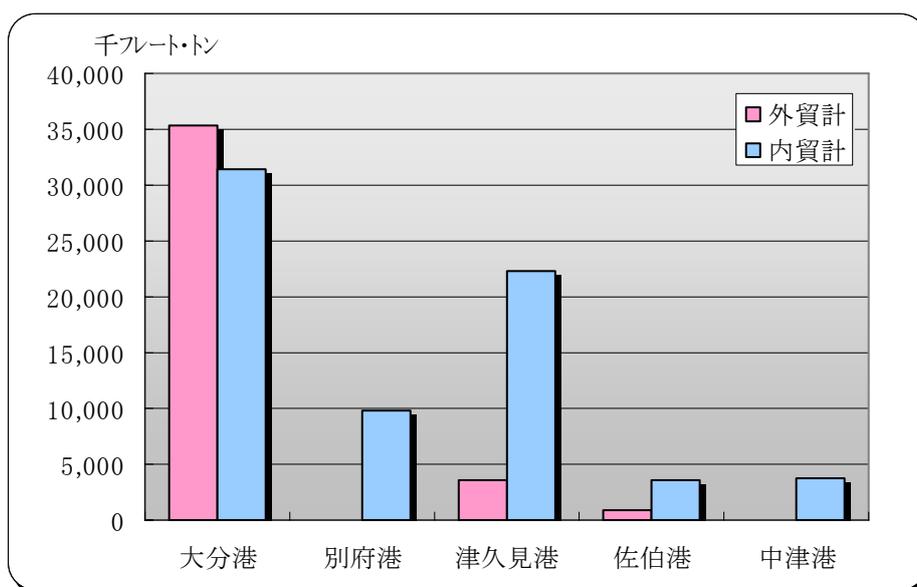
表 港湾取扱貨物量

単位:フレート・トン

港湾名	全体	外貿計	輸出	輸入	内貿計	移出	移入
大分県全体	128,222,536	42,612,119	9,837,008	32,775,111	85,610,417	56,146,394	29,464,023
重要港湾	110,990,055	39,879,801	8,380,560	31,499,241	71,110,254	49,243,231	21,867,023
大分港	66,775,964	35,337,754	4,820,668	30,517,086	31,438,210	20,723,705	10,714,505
別府港	9,859,700	0	0	0	9,859,700	4,828,860	5,030,840
津久見港	26,003,562	3,641,798	3,050,830	590,968	22,361,764	20,380,990	1,980,774
佐伯港	4,541,196	891,191	509,062	382,129	3,650,005	1,234,950	2,415,055
中津港	3,809,633	9,058	0	9,058	3,800,575	2,074,726	1,725,849
地方港湾	17,232,481	2,732,318	1,456,448	1,275,870	14,500,163	6,903,163	7,597,000

資料：H18 年港湾取扱貨物量

図 港湾取扱貨物量（重要港湾）



※フレート・トン（Freight Tonnage）：貨物運賃計算の基礎となる貨物の単位で、運賃トンともいう。

※重要港湾：港湾法第2条第2項で「国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する港湾」

③ 鉄道

本市には、JR日豊本線が通っており、市内には2箇所の駅が設置されています。

これまで公共交通機関の軸として都市の発展や特産品の物流に寄与するとともに、通勤通学者や観光客に利用されてきたが、乗降客数は年々減少しています。

表 駅の利用状況の推移

駅名	種類	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
津久見駅	乗車人員	427,429	412,824	403,212	380,456	350,299	338,990	322,165	315,444
	降車人員	427,820	412,069	405,948	380,734	351,482	340,425	326,136	319,790
	合計	855,249	824,893	809,160	761,190	701,781	679,415	648,301	635,234
日代駅	乗車人員	51,276	49,661	46,174	45,066	39,958	34,448	29,430	24,114
	降車人員	48,302	47,496	43,816	41,034	37,199	32,076	27,491	22,111
	合計	99,578	97,157	89,990	86,100	77,157	66,524	56,921	46,225

資料：津久見市統計書

④ バス

本市には、7路線のバス路線が通っており、日常の足として市民に利用されています。

しかしながら、バス利用者は年々減少しており、平成12年度と平成16年度で比較すると概ね5割に減少しています。

表 市内バス（各路線毎）の利用者状況の推移

単位：百人

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
川内線	240	240	120	210	190	125	118	89
中ノ内・西ノ内線	10	10	5	5	2	2	2	3
千怒經由鳩線	410	350	280	270	190	429	417	368
内名(堅浦)線・長目線	700	600	510	420	420	318	308	269
福良經由臼杵線	10	10	5	休止	休止	休止	休止	休止
柳原經由市浜線	110	110	110	80	50	52	43	57
坂ノ市經由大分線	60	60	30	25	22	廃止	廃止	廃止
計	1,540	1,380	1,060	1,010	874	926	888	786

資料：津久見市統計書

⑤ 離島航路

本市には、有限会社やま丸が運行する保戸島を結ぶ航路と、本市直営で運営する無垢島を結ぶ航路の2つの離島航路が就航しており、島民の重要な生活航路となっていますが、年々利用者が減少しています。

表 離島航路（各路線毎）の利用者状況の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
保戸島航路	134,000	125,461	122,068	115,520	112,302
無垢島航路	5,104	5,024	5,487	5,547	5,832

資料：津久見市

(8) 都市基盤整備状況

① 都市計画道路

本市では、20 路線が都市計画道路として指定されており、その内 8 路線が改良済みです。都市計画道路の内 15 路線が昭和 30 年に当初決定が行われており、その内 4 路線は未だに未改良です。

新市街地（用途地域南部）の道路は比較的改良率が高いですが、建物が密集する市街地部分や鉄道横断箇所等では整備が進んでいません。なお、地域間を連絡する農道の整備によって、整備に必要そのものが低くなっている路線も一部にみられます。

表 都市計画道路整備状況

平成21年3月31日現在

番号	名称	都市計画決定状況		計画車線の数(車線)	計画幅員(m)	計画決定の延長(m)	改良済延長(m)	概成済延長(m)	改良率(%)
		当初決定	最終決定						
1.3.1	青江津久見線	H 8.11.12	H17.1.18	4	23.5	5,250	5,250	0	100.0%
3.4.1	駅前線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	18	230	230	—	100.0%
3.4.2	松崎高洲線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	16	1,400	1,246	0	89.0%
3.5.3	角崎中田線	S30. 3.31	H 7. 3. 7	—	12	1,100	480	0	43.6%
3.5.4	松崎徳浦線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	14	2,410	0	0	0.0%
3.6.5	松崎川内線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	11	4,740	4,310	—	90.9%
3.6.6	井無田成守線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	11	1,500	1,500	—	100.0%
3.4.7	角崎新地線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	16	3,380	3,380	—	100.0%
3.5.8	大友彦の内線	S57. 7. 6	H17. 1.18	2	12	1,940	1,940	—	100.0%
3.6.9	駅裏線	S30. 3.31	S50.11.11	—	11	520	520	—	100.0%
3.6.10	高洲中の内線	S43. 4.19	S57. 7. 1	—	11	3,450	3,080	0	89.3%
3.4.11	長野堅浦線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	16	3,300	1,846	502	55.9%
3.7.12	姥目線	S30. 3.31	S57. 7. 1	—	7	250	250	—	100.0%
3.6.13	姥目塩屋線	S30. 3.31	S57. 7. 1	—	8	285	0	160	0.0%
3.6.14	姥目高洲線	S30. 3.31	S57. 7. 1	—	8	340	0	0	0.0%
3.6.15	松崎道尾線	S30. 3.31	H17. 1.18	2	8	1,260	0	930	0.0%
3.6.16	西の内線	S30. 3.31	S50.11.11	—	8	940	940	—	100.0%
3.5.17	成守大工線	S30. 3.31	H 7. 3. 7	—	14	600	180	0	30.0%
3.6.18	千怒彦の内線	H 7. 3. 7	H11.10.15	2	11	2,080	524	0	25.2%
3.5.19	千怒線	H 7. 3. 7	H 7. 3. 7	—	13	1,260	455	0	36.1%

資料：大分県都市計画（資料編）平成 21 年 7 月

図 津久見市全体の都市計画道路整備状況

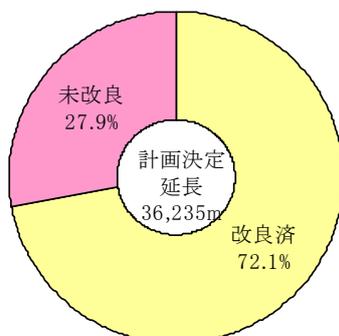
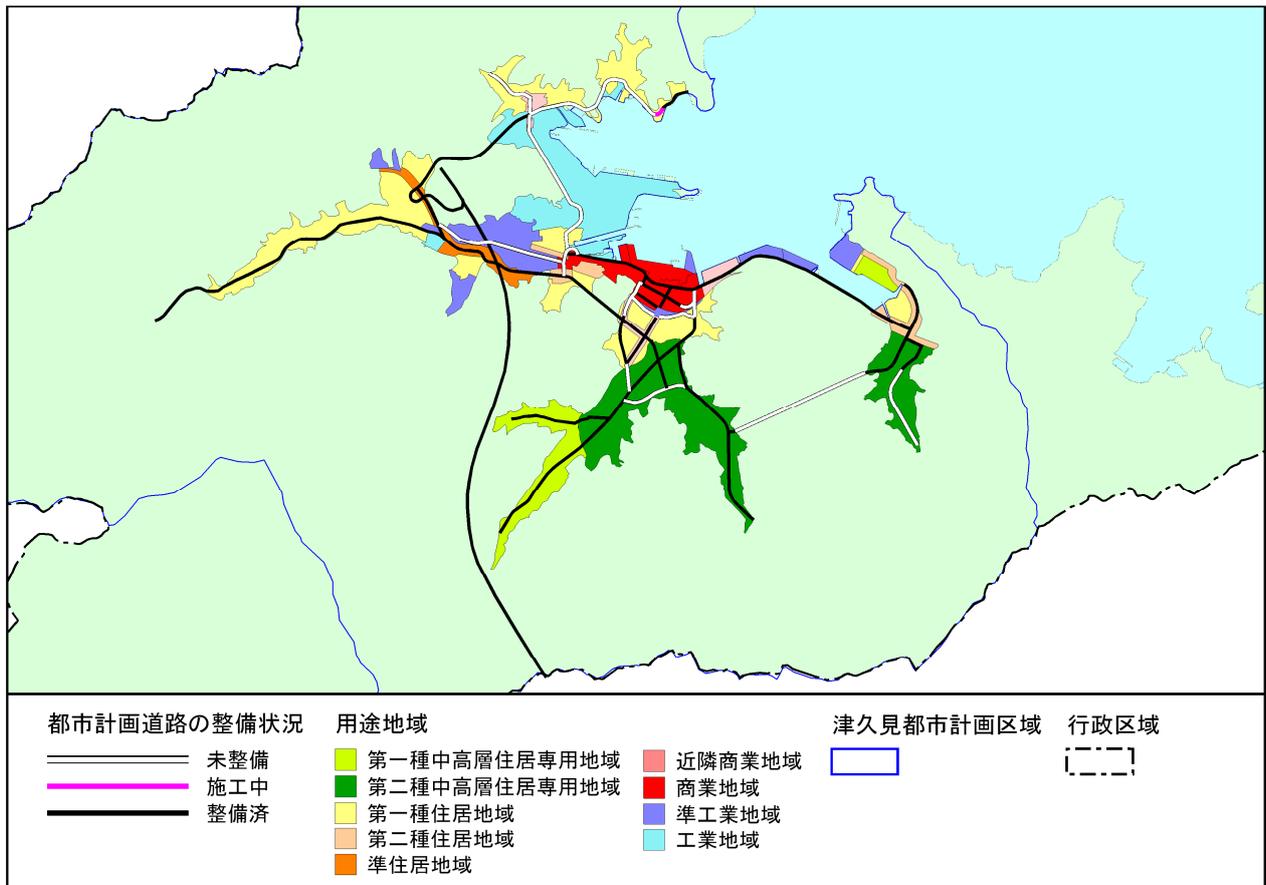


図 都市計画道路の整備状況

平成 21 年 3 月 31 日現在



## ② 都市計画公園

本市では、街区公園 11 箇所、近隣公園 3 箇所、地区公園 1 箇所の合計 15 箇所の公園が都市計画決定されており、都市計画公園の整備率は 100%となっています。

このうち、本市中心部の埋め立て地に完成した「つくみん公園」については、隣接する臼杵市や佐伯市からも多くの利用客が訪れて賑わっています。

また、都市計画決定はなされていないが、千怒崎のそばにある総合運動公園は、市民野球場も併設しており、平成 20 年の国体軟式野球の会場としても活用されています。

表 都市計画公園整備状況

平成21年3月31日現在

		計画 (ha)	供用 (ha)	整備率	当初決定
街区公園		1.94	1.94	100.0%	
2.2.1	警固屋児童公園	0.17	0.17	100.0%	S32.12.19
2.2.2	セメント町児童公園	0.10	0.10	100.0%	S32.12.19
2.2.3	徳浦仲よし児童公園	0.08	0.08	100.0%	S32.12.19
2.2.4	えびす児童公園	0.34	0.34	100.0%	S48.12.28
2.2.5	徳浦公園	0.33	0.33	100.0%	S48.12.28
2.2.6	宮本東児童公園	0.15	0.15	100.0%	S48.12.28
2.2.7	宮本西児童公園	0.12	0.12	100.0%	S49.8.9
2.2.8	高洲幼児公園	0.05	0.05	100.0%	S50.11.11
2.2.9	西ノ内児童公園	0.07	0.07	100.0%	S58.3.2
2.2.10	千怒児童公園	0.32	0.32	100.0%	S58.3.2
2.2.11	広浦児童公園	0.21	0.21	100.0%	H.4.7.13
近隣公園		4.50	4.50	100.0%	
3.3.1	大友公園	1.10	1.10	100.0%	S.32.11.19
3.3.2	宗麟公園	0.90	0.90	100.0%	H5.3.19
3.3.3	つくみん公園	2.50	2.50	100.0%	H15.3.11
地区公園		5.70	5.70	100.0%	
4.4.1	宮山公園	5.70	5.70	100.0%	S51.10.8
総合公園					
—	—	—	—	—	—
運動公園					
—	—	—	—	—	—
特殊公園					
—	—	—	—	—	—
広域公園					
—	—	—	—	—	—
公園 計		12.14	12.14	100.0%	
緑地 計		—	—	—	

資料：大分県都市計画（資料編）平成 21 年 7 月

### ③ 下水道

本市の公共下水道は、都市計画区域内の 604ha が排水区域に計画決定されていますが、今後、排水区域を縮小し、水洗化率向上を目指していきます。

### ④ 上水道

上水道事業における給水区域内現在人口に対する現在給水人口で表される普及率は 98%を超えています。上水道事業の水源は、市の中心部にあり、青江川水系、津久見川水系の地下水を主に取水しています。

(9) その他、保全・活用すべき資源等

① 観光

本市の観光客数の推移を見ると、津久見ICの完成した平成14年に急激に増加し、前年の約1.7倍に増えています。その後は平成16年まで徐々に減少しましたが、平成17年には再び増加に転じています。観光客の内訳をみると、ほとんどが日帰り観光であり、平成14年を期に急激に増加しています。一方、宿泊数は、平成17年以前は3,000人前後で推移していましたが、平成17年以降は1万人を超えています。

なお、本市を訪れる観光客数は、大分県下で姫島村に次いで2番目の低さであり、大分県全体の0.3%程度となっています。

観光客が利用する交通機関をみると、自家用車での移動が最も多く9割以上を占めており、発地別でみると大分県内からの観光客が多くを占めています。

表 日帰り・宿泊別観光客数の推移

単位:人

年次	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年
日帰り	86,548	150,110	130,308	129,634	143,834	143,750
宿泊	2,798	3,571	2,992	2,940	22,617	21,800
総数	89,346	153,681	133,300	132,574	166,451	165,550

資料：平成14～19年度の大分県統計年鑑

図 日帰り・宿泊別観光客数の推移

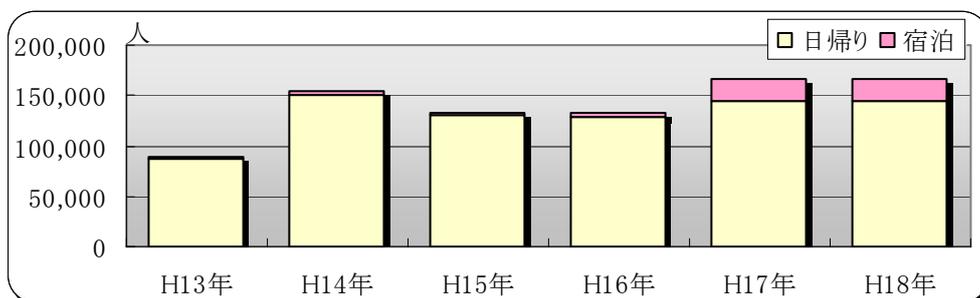


表 日帰り・宿泊別観光客数の県内比較

	日帰り・宿泊別観光客数(H18年)					
	日帰り客		宿泊客		総数	
	客数	構成比	客数	構成比	客数	構成比
大分市	3,215,690	6.9	663,765	8.5	3,879,455	7.1
別府市	7,828,823	16.7	3,936,966	50.3	11,765,789	21.5
中津市	3,390,567	7.2	170,288	2.2	3,560,855	6.5
日田市	6,111,748	13.0	490,710	6.3	6,602,458	12.1
佐伯市	3,349,183	7.1	112,452	1.4	3,461,635	6.3
臼杵市	537,603	1.1	45,487	0.6	583,090	1.1
津久見市	143,750	0.3	21,800	0.3	165,550	0.3
竹田市	3,837,480	8.2	423,449	5.4	4,260,929	7.8
豊後高田市	1,028,862	2.2	42,389	0.5	1,071,251	2.0
杵築市	700,219	1.5	111,555	1.4	811,774	1.5
宇佐市	3,671,308	7.8	117,243	1.5	3,788,551	6.9
豊後大野市	2,823,718	6.0	31,772	0.4	2,855,490	5.2
由布市	3,669,757	7.8	934,895	12.0	4,604,652	8.4
国東市	734,632	1.6	57,147	0.7	791,779	1.4
姫島村	28,815	0.1	12,348	0.2	41,163	0.1
日出町	754,565	1.6	204,317	2.6	958,882	1.8
九重町	4,441,800	9.5	417,500	5.3	4,859,300	8.9
玖珠町	662,700	1.4	27,700	0.4	690,400	1.3

資料：平成19年度大分県の統計年鑑

表 交通機関別観光客数  
(単位 人)

	利用交通機関別観光客数(平成18年)						
	総数	構成比(%)	列車	バス	自家用車	船舶	その他
大分県	54,753,003	100.0	3,674,725	8,611,744	41,014,481	654,555	797,498
大分市	3,879,455	7.1	1,388,577	230,969	2,044,044	211,150	4,715
別府市	11,765,789	21.5	875,364	695,616	9,553,552	220,481	420,776
中津市	3,560,855	6.5	94,312	998,809	2,450,134	0	17,600
日田市	6,602,458	12.1	230,257	2,219,911	4,070,007	0	82,283
佐伯市	3,461,635	6.3	130,094	361,178	2,896,798	52,295	21,270
臼杵市	583,090	1.1	53,296	63,300	412,713	50,282	3,499
津久見市	165,550	0.3	5,890	3,300	156,310	50	0
竹田市	4,260,929	7.8	53,532	352,578	3,765,524	0	89,295
豊後高田市	1,071,251	2.0	0	449,925	578,476	0	42,850
杵築市	811,774	1.5	51,865	112,351	614,728	11,287	21,543
宇佐市	3,788,551	6.9	215,806	1,124,848	2,447,897	0	0
豊後大野市	2,855,490	5.2	103,690	316,110	2,435,690	0	0
由布市	4,604,652	8.4	256,204	182,905	4,146,015	0	19,528
国東市	791,779	1.4	30	175,400	536,596	61,142	18,611
姫島村	41,163	0.1	0	0	0	41,163	0
日出町	958,882	1.8	104,508	67,244	724,897	6,705	55,528
九重町	4,859,300	8.9	52,400	1,162,400	3,644,500	0	0
玖珠町	690,400	1.3	58,900	94,900	536,600	0	0

資料：平成19年度大分県の統計年鑑

図 利用交通機関別観光

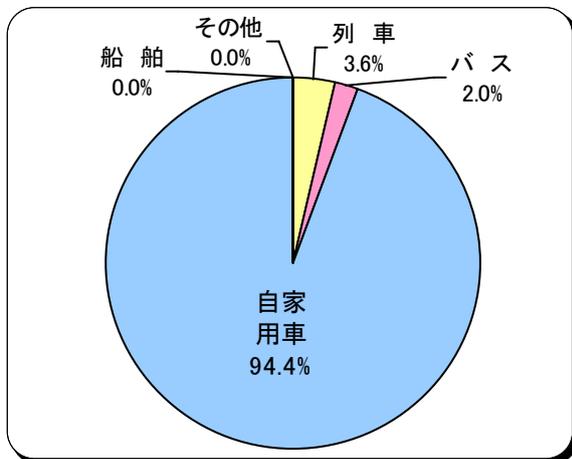
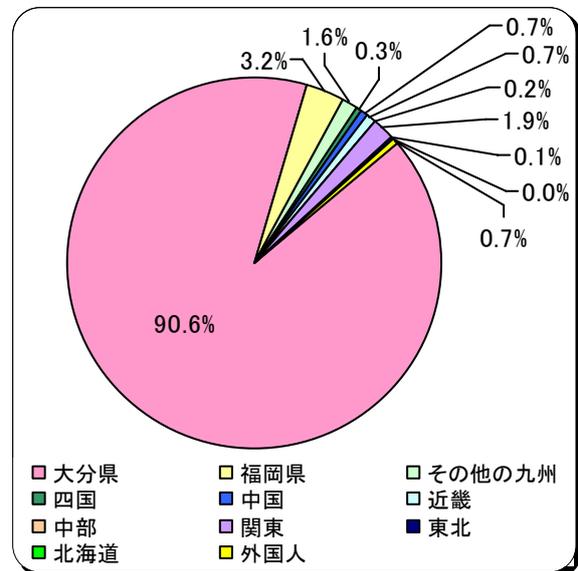


図 平成17年 発地別観光客



資料：平成17年 大分県観光統計調査

② 文化財等

本市には、国天然記念物に指定されている尾崎小みかん先祖木、県天然記念物に指定されている姥目のウバメガシをはじめ、市指定の天然記念物、文化財、史跡が各地に分布しています。

表 指定文化財の状況

指定主体	種類	名称	位置	指定年月日
国	天然記念物	尾崎小みかん先祖木	津久見市大字上青江3013番地	S12.6.15
県	天然記念物	姥目のウバメガシ	津久見市中央町	S35.3.22
県	無形民俗文化財	堅浦霜月祭りの芸能	津久見市大字堅浦	H10.3.20
市	天然記念物	アコウ	津久見市大字網代字奥5665番地	S51.10.8
市	天然記念物	姥目公園ウバメガシ	津久見市中央町7番	S51.10.8
市	天然記念物	千怒新地ウバメガシ	津久見市大字千怒新地6239番地	S51.10.8
市	天然記念物	彦ノ内谷川天満社タブノキ	津久見市大字津久見字谷川1036番地	H10.1.12
市	天然記念物	田尾拝高神社タブノキ	津久見市大字津久見字ハイ高2の5642	H10.1.12
市	有形文化財	鬼丸板碑	津久見市大字上青江5245番地の1	H3.3.31
市	有形文化財	道尾石幢	津久見市大字上青江3144番地の1	H3.3.31
市	有形文化財	川内石幢	津久見市大字上青江6388番地	H3.3.31
市	有形文化財	世尊寺五重塔	津久見市大字下青江1198番地	H3.3.31
市	有形文化財	村上神社宝篋印塔	津久見市大字上青江字櫛山643番地	H3.3.31
市	有形文化財	高野家文書	津久見市大字長目1421番地	H5.1.11
市	有形文化財	臼杵藩領津久見絵図	津久見市セメント町3-9	H5.1.11
市	有形文化財	解脱閣寺文書	津久見市井無田町1187-2	H5.1.11
市	有形文化財	軸丸文書	津久見市中央町15-8	H5.1.11
市	有形文化財	長頸壺	津久見市大字網代504番地	H5.1.11
市	無形民俗文化財	ジョウヤラ踊り	津久見市大字四浦深良津	H3.3.31
市	史跡	大友宗麟公墓	津久見市大字津久見4190番地	H5.1.11
市	有形文化財	江ノ浦区共有文書	—	H5.1.11
市	無形民俗文化財	津久見扇子踊り	—	H3.3.31

資料：津久見市資料



尾崎小みかん先祖木



姥目公園ウバメガシ



津久見扇子踊り



大友宗麟公墓

## 2

## 都市の特性・問題点と課題



これまで捉えてきた都市の現況から、本市における都市づくりに関する特性や問題点を示します。

### ① 豊かな自然環境と限られた平坦地

本市は、豊後水道に面した津久見湾を囲むように半島部のリアス式海岸が伸び、山林が海岸部まで迫るような地形が多いため、青い海岸線と緑の山林がコントラストをなすような景観が特徴となっています。一方、市街地等に利用できる平坦地は限られており、河口部と河川沿いの平地にまとまった市街地が形成されている以外は、海岸沿いや山地部に集落が点在する程度となっています。このため、中心市街地に近接する港湾や水晶山跡地を利用した新たな拠点形成が求められています。

### ② 人口流出による急激な人口減少

本市は、地形的に平地が少ないため、限られた土地に人口が密集する市街地形態が基本となってきました。このため、ゆとりある新しい住宅を求める世帯や、就業の場を市外に持つようになった世帯が流出するようになり、その結果、県下でも人口減少が著しい都市となってしまっています。ただし、こうした人口減少は、地域によって傾向に差異が見られ、中心市街地や半島部では急激な人口減少が見られるのに対し、新たな住宅開発が行われた地域ではそれほど急激な減少は見られません。このうち、中心市街地においては、空き家・空店舗が多く発生しており、中心市街地に利用できる土地がないというかつての状況からは大きく変化しつつあります。

### ③ 特徴的な産業構造と地域産業の低迷

本市の産業は、ライム産業、マグロ漁、みかん栽培などが基幹的な産業となっており、いずれも本市のブランドともいえる特徴的な地域産業となっています。しかし、近年、これら基幹産業における従業者数は減少しており、生産額も横ばいもしくは減少傾向にあるため、さらなるブランド化や付加価値向上等による地域産業の活性化と雇用の創出が求められています。また、本市の商業に関しても、買い物客が市外へと流出する状況となっており、中心市街地の活性化と連動して商業振興を図ることが必要となっています。

### ④ 利便性の高い広域交通と未整備な地域内交通

佐伯 IC までの延伸によって、本市はさらに利便性の高い広域交通条件を備えることになりました。また、市内地域間を連絡するトンネルが相次いで開通したことによって、地域間の交通利便性も大きく向上することになりました。しかし、津久見 IC から中心市街地を連絡する道路の分岐にくさや、半島部や山地部における狭隘な道路、踏切箇所の多さなど、地域内交通の一部には未整備の箇所が依然として多く残されています。また、未整備の都市計画道路も多く残されていますが、新たな道路の整備によって必要性が低くなった路線や、鉄道を跨ぐという構造面から事業着手の進まない路線もあり、新たな道路網の検討、再構築が必要となっています。

### ⑤ 循環型社会への対応

湾内に点在する島々、半島部のリアス式海岸が織り成す独特の景観は日豊海岸国定公園に、海面に迫る山並みや市街地を取り囲むように広がるみかん栽培の段々畑などの急峻地は豊後水道県立自然公園に、指定されています。この風光明媚な景観を維持するためには、都市活動が環境負荷を与えることなく行われることが前提となります。そのため、まちづくりは、循環型社会に対応した考え方に基づく必要があります。

(参考)『津久見市活性化検討会』がまとめた本市の特性と課題

都市計画マスタープラン策定にさきがけ「津久見の活性化」をテーマに検討されてきた「津久見市活性化検討会」(平成20年9月から平成21年1月)では、本市の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を整理した上で、本市の特性と課題及び津久見の活性化のイメージを次のようにとりまとめています。

基盤整備に関する意見

- 高速道路の延伸をチャンスに変える必要がある
- 水晶山跡地の活用は活性化のチャンス
- ICと港をスムーズにつなぐことが必要
- 平地が少ない。そのコンパクトなまちの構造をチャンスに変える
- 荒れたままの農地が多くなり、農地の集約化が必要
- 港湾整備によって物流の拠点となるチャンス

本市が持っている資源に関する意見

- 津久見ブランドをもっと発信する必要がある(みかん、海産物)
- インターネットや情報誌をもっと活用すべき
- 青江ダムやうみたま島(仮称)はアピールするチャンス
- みなとオアシスに認定されたつくみん公園のにぎわいを周辺にも広げていく
- 空店舗、空き家、休校箇所を活性化に活用してはどうか
- リサイクル先進都市であることをもっとアピールすべき

ひとに関する意見

- やさしい人柄はまちづくりに活かせる
- 市民参加の仕組みは、市民と協働でつくる必要がある
- まちづくりに対する意識向上が必要
- 自分の地域の良さを再認識することが必要
- 人材バンクによってマンパワーを充実させてはどうか
- 市民と行政の意識のずれを解消する情報共有の手段が必要



津久見の活性化のイメージを左図のとおり整理しています。

この中で、「基盤をつくる」を木の「幹」、「資源を活用する」「ひとをつくる」を木の「枝」にたとえて、活性化という「実」を育てていく、という考え方を示しています。

左図：「津久見の活性化のイメージ」

# 津久見市都市計画マスタープラン



平成22年9月

津久見市

## 「津久見市都市計画マスタープラン」ごあいさつ

津久見市では、「第4次津久見市総合計画」を上位計画に、『みんなで描く・津久見未来図～豊かな自然の中で、ゆとりをもって暮らせるまち～』を都市づくりの将来像に掲げ、概ね20年後を見据えた上で、10年後の津久見市を展望し、2020年を目標年次として「津久見市都市計画マスタープラン」の策定に努めてまいりましたが、多くの方々のご尽力により、ここに完成いたしましたので、ご報告申し上げます。



都市計画マスタープランとは、その町の現状や課題を把握し、都市計画区域の整備・開発及び保全について、長期的展望に立った都市づくりの総合的な指針を定めるものです。

本市を取巻く課題は、人口の減少・高齢化社会・財政の悪化・中心市街地の空洞化など各自治体が抱える共通の問題に加え、限られた平坦地・特徴的な産業構造・未整備な地域内交通路など、多種にわたっています。

特に財政状況は、長引く景気の低迷による市税の減収、地方交付税の減少、そして国の三位一体の改革などにより、今もなお厳しい道のりが続いています。

また、「事業仕分け」や「コンクリートから人へ」の方針により、公共事業の在り方自体が問われる中、本市では平成16年10月から実施している第1次及び第2次緊急行財政改革実行計画を基に、歳入の確保と歳出の削減対策を確実に実行しながら、景観の保全・コンパクトなまちづくり・安全な交通体系の構築・地域間連携の強化などの4項目について、市民と行政が協働で取り組むことを基本目標として、マスタープランづくりを進めてきました。

その策定に当たっては、広く市民の声を反映させるために、住民32人の参加によるワークショップ手法とアンケート調査等を併用して、全体構想及び地域別構想に分別し、各ゾーン並びにそれぞれの拠点を連携軸で結ぶなど、コンパクトで効率的な都市構造を提案しています。

かつて本市は、みかん・セメント・水産業など、全ての分野で輝いていましたが、近年それが失われつつあります。

もう一度輝きを取り戻すために、このマスタープランを指針として、独自性に満ち溢れた「元気ある津久見づくり」実現に向け、積極的に取組んでいきたいと考えています。

最後に、本計画の策定にあたりまして、数々のご意見をいただいた市民の皆様、これからの本市の都市づくりのために、熱心にご検討いただきました都市計画マスタープラン策定委員の皆様、そしてご協力いただきました全ての方々に、心から厚くお礼を申し上げます。

平成22年9月  
津久見市長 吉本 幸司

# 目 次

<b>1章 都市の現況と課題の整理</b> .....	1
<b>1 都市の現況</b> .....	1
(1) 自然的条件.....	1
(2) 人口・世帯数.....	2
(3) 産業.....	4
(4) 土地利用.....	7
(5) 市街地開発事業及びその他の開発動向.....	8
(6) 法規制指定状況.....	9
(7) 交通.....	11
(8) 都市基盤整備状況.....	15
(9) その他、保全・活用すべき資源等.....	19
<b>2 都市の特性・問題点と課題</b> .....	22
<b>2章 全体構想</b> .....	24
<b>1 都市の将来像と都市づくりの基本目標</b> .....	24
(1) 都市の将来像と都市づくりの理念.....	24
(2) 都市づくりの基本目標.....	25
(3) 将来フレーム.....	26
<b>2 将来の都市構造</b> .....	26
(1) 土地利用の基本区分.....	26
(2) 骨格的拠点の配置.....	26
(3) 連携軸の配置.....	27
<b>3 都市整備方針</b> .....	28
(1) 土地利用の方針.....	28
1) 土地利用の基本方針.....	28
2) 土地利用の配置方針.....	29
(2) 交通体系の整備方針.....	34
1) 交通体系整備の基本方針.....	34
2) 交通施設の整備方針.....	35
(3) 市街地整備方針.....	39
(4) 公園・緑地の整備方針.....	40
(5) 自然環境の保全の方針.....	41
(6) 都市景観形成の方針.....	42

(7) 都市防災の方針	44
1) 都市防災の基本方針	44
2) 都市防災対策	45
(8) その他の都市施設の整備方針	45
1) 下水道の整備方針	45
2) 上水道・簡易水道の整備方針	45
3) 河川の整備方針	45
<b>3章 地域別構想</b>	<b>46</b>
<b>1 地域区分</b>	<b>46</b>
<b>2 第一中学校地域</b>	<b>47</b>
(1) 第一中学校地域の特性と課題	47
1) 地域の特性	47
2) 地域の課題	48
(2) 第一中学校地域の将来像と地域別整備方針	51
1) 土地利用の方針	51
2) 地域施設の整備方針	51
3) その他地域のまちづくり方針	52
(3) 第一中学校地域の地域別構想図	53
<b>3 第二中学校地域</b>	<b>54</b>
(1) 第二中学校地域の特性と課題	54
1) 地域の特性	54
2) 地域の課題	55
(2) 第二中学校地域の将来像と地域別整備方針	58
1) 土地利用の方針	58
2) 地域施設の整備方針	58
3) その他地域のまちづくり方針	59
(3) 第二中学校地域の地域別構想図	60

4	半島・島しょ部地域	61
(1)	半島・島しょ部地域の特性と課題	61
1)	地域の特性	61
2)	地域の課題	63
(2)	半島・島しょ部地域の将来像と地域別整備方針	65
1)	土地利用の方針	65
2)	地域施設の整備方針	65
3)	その他地域のまちづくり方針	66
(3)	半島・島しょ部地域の地域別構想図	67
<b>4章</b>	<b>実現化方策</b>	<b>68</b>
1	計画の実現に向けた組織体制の充実	68
(1)	市民参加によるまちづくり協議会の推進	68
(2)	効率的な施策の推進	69
(3)	都市計画マスタープランの進捗状況の管理、評価の実施	69
2	住民主体のまちづくりに向けて	69
(1)	都市計画マスタープランの周知	69
(2)	市民のまちづくり参加機会の増大	69
(3)	まちづくりリーダーの育成	69
3	都市計画の決定又は変更に向けて	70
(1)	地域地区等の決定または変更	70
(2)	都市計画道路等の決定又は変更	70
(3)	都市計画的手法の新規導入	70

## 策定の経緯

- 1 計画策定体制
- 2 津久見市都市計画マスタープラン策定委員会
- 3 地域別ワークショップ
- 4 半島・島しょ部アンケート